

(1) 最近の環境状況について

①大池公園の環境対策について

審議会意見：毎月の調査が予算的に困難であるなら、季節ごとの調査を実施してもらい、水質の改善について、市民、団体、学識経験者、行政からなる対策会議を組織してもらいたい。

【大池の現状】

平成27年度3月に実施した水質調査の結果から大池の水質は窒素とリンの値が高い。原因として考えられるのは、秋から冬に飛来する野鳥の糞と周辺の畑の栽培時に使用する肥料の成分が砂丘地帯であるため地下に浸透するためと思われます。

【市の対応等】

1. 平成28年度

- ①大池の湖底調査 ..... 8月3日～4日に濁水していた池の中心部で職員が現状の確認。調査時の状況は、中心部の水深が30cmで、20cm程度の低泥層があり、泥は腐植土状態で無臭でした。
- ②濁水対策 ..... 調査終了後（8月5日）、大池の濁水状態の解消のためにポンプ運転（229時間）を実施し、約6,000トンの水を注水しました。

2. 平成29年度

- ①大池の環境整備 ..... 大池の護岸奥の藪の整備。
- ②低泥層の調査 ..... 中心部に堆積している低泥層については、平成28年度の要望で大池の所有者である北新保集落から浚渫の要望を受けています。このため、今年度低泥層の地質調査をして、翌年度どのように浚渫するかを検討します。
- ③濁水対策 ..... 昨年度に引き続き、今年度も濁水対策として大池への注水を予定しています。
- ④その他 ..... 大池に生息している鯉が多くなったので、鯉の移転を行います。すでに、新保集落と移転先（南大平砂防ダム）については協議済みです。

【今後について】

今年度の地質調査の結果を見て、どのような処理が適当か検討し、平成30年度の予算に反映したいと考えます。

ただし、大池は砂丘湖のため、周りに降った雨水等が浸透してたまる構造であるため、大池周辺の畑地で利用される化学肥料（窒素やリン）が混入していることから根本的な解消は難しいですが、定期的な注水や浚渫などにより少しでも水質の改善を図っていきたいと考えます。

なお、人為的な改善策だけでなく、植物による水質浄化にも取り組んでいきたいと考えます。